第１学年３組　図画工作科学習指導案

**１　題材名**

　　目だまをつけて

**２　本時の学習指導**（１、２/２時）

(１)目標

　　　　目玉をつける活動を通して、身のまわりのものの新しい見方・考え方に気づく。（発想や構想の能力）

(２)準備

　　〇教師：画用紙、セロハンテープ、参考作品、拡大提示装置、ipad

　　〇児童：カラーペン、クレヨン、はさみ

　(３)展開

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 学習活動 | 指導上の留意点  （〔共〕:〔共通事項〕に係る内容） | 評価と手立て  評価の観点：評価方法等 | 時間 |
| １、目玉をつけて活動していくことを話し合う。  ２、目玉を作って、身近なものにつけ、新しい生き物を作る。  ↑  行き戻り  ↓  ３、生き物の名前を付ける。  ４、新しい友達の発表会をする。  ５、片付け | 〇授業の導入で、教師が目玉をつけて作った生き物(参考作品)を紹介して、目玉をつけて身近な物を生き物にしたいという気持ちを高める。  ○画用紙を配り、目玉をかいてはさみで切り取るようにする。発表したい生き物を一つ選び、教師がipadで撮影する。  ○目玉を貼るときはセロハンテープを丸めて両面テープにしたものを目玉につけて、生き物にしたい場所や物につけるようにする。  ○時間が許す限りいくつ生き物をつくっても良いこととし、表現活動が繰り返し行われるようにする。  ○身の回りにあるものの形や色などを基に、自分のイメージをもつ[共]  ○目の色、形にも着目し、面白い形や色で表した目玉を評価していく。  ○身の回りのものに目玉をつける活動を通して、形や色などを捉える。[共]  ○児童が手で持つか、教師がデジタルカメラで撮影した生き物をテレビに写すことで発表会を行っていくようにする。  ○目玉の貼残しがないようにする。 | 発目玉をつける対象を選んでいたりどんな目玉をつけるか考えたりし、新しい表し方を見つけている。[対話、行動観察、表現] | ５‘  ４０‘  １０‘  ３０‘  ５‘ |

**３　板書計画**

①目だまをつけたいきものの　　　　②いきもののしょうかいをしよう

名まえをかんがえよう

目だまをつけて

**４　備考**　在籍児童数　３４名